

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
<p>問題一では、昨年度同様、近年出版された文章が出題されたが、かつての日本人が書いた「日記」を採り上げ、そこに生じる「規範化」とそこから「逸脱」するあり方を論じる文章であった。設問はそれほど難しいものはなかったが、やはり字数条件内に要素を十全に入れることが難しいものであった。</p> <p>問題三は、現代のデジタル状況の中では、真偽を識別する力を養うポジティブなメディアリテラシーだけでなく、あいまいな情報に耐え、不用意な発信を行わないネガティブなメディアリテラシーが求められることを論じた文章であった。長いが平易な文章であり、現代の状況を踏まえつつ、デュエイ以来のメディアリテラシーと筆者の言うネガティブなメディアリテラシーとの対比構造をきちんと押さえよう。</p> <p>全体としては昨年度よりやや易化したと言えるだろう。</p>			

<本文分析>

大問番号	問題一	問題三
出典 (作者)	田中祐介「『日記文化』を掘り下げ、歴史を照射する」(『無数のひとりが紡ぐ歴史 日記文化から近現代日本を照射する』文学通信 2022年刊所収)	佐藤卓己「『ネガティブ・リテラシー』の時代へ」(村上陽一郎編『『専門家』とは誰か』晶文社 2022年刊所収)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試でしばしば出題される筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 約2650字 昨年より約300字減少	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・ 増加) 約3150字 昨年より約950字増
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題一	日記に関する文章	問い一	記述	やや難 標準	漢字の書き取り問題。A「秘匿」、E「罵倒」がやや難しい。傍線部の内容説明問題。「潜在的な読者」と「自己演出」という傍線部一の表現を、傍線部一を含む段落とその前の段落の記述に基づいて簡潔に説明する。 傍線部の理由説明問題。問い二とややダブるが、傍線部二を含む引用文とその前後の段落の内容を踏まえ、(読者への意識)→(その読者の規範の内面化)というプロセスを書く。 「文章全体をふまえて」本文の事例の意味を答える問題。最後から2つ目の段落末尾に「規範化と逸脱の力学のなかで表象される複雑さ」とあり、「文章全体」では「規範化」が論じられているが、最終段落の「事例」は、規範から「逸脱」しようとする「複雑さ」に該当するものであると考える。
		問い二	記述		
		問い三	記述	標準	
		問い四	記述	標準	
問題三	メディアリテラシーに関する文章		記述	標準	要約問題。現代のデジタル状況を前提とし、旧来のメディアリテラシーと、安直な理解や発信をしないことが重要であるという筆者の言うメディアリテラシーとの対比を踏まえた解答を書けばよい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題一については、多様な文体の文章・多様なジャンルの文章に取り組み、制限字数内で簡潔に解答をまとめる記述練習を積むこと。漢字や語句の知識の習得も怠らないようにしたい。

問題三については、評論はもちろん、エッセイや古い文体の文章も含め、やはり様々なジャンル・文体の文章を読み、200字の要約練習を行っていくこと。

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

今年度は昨年度と同様に近代文語文が出題された。設問数は昨年度と同様に三問であった。問い一は、昨年度と同様に現代語訳の問題であり、字数制限は設けられていなかった。問い二は、昨年度は理由説明の問題に30字の字数制限が設けられていたが、今年度は内容説明の問題に35字の字数制限が設けられていた。問い三は、昨年度は文章全体をふまえる内容説明の問題に50字の字数制限が設けられていたが、今年度は文章全体をふまえる理由説明の問題に50字の字数制限が設けられていた。

<本文分析>

大問番号	問題二
出典 (作者)	矢野文雄『人権新説駁論』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 1042字。14字増加 (原文を一部省略して出題された)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題二	論説	問い一	記述	標準	現代語訳。「之」の内容を正しく捉え、平易な表現を心がける。「圧制者」の意味に注意する。
		問い二	記述	標準	内容説明。35字以内。第四段落の内容を確認し、「隠頭」との対比を明示しつつ制限字数内で簡潔にまとめる。
		問い三	記述	標準	理由説明。50字以内。「人類の道理権利」についての矢野文雄と加藤弘之の主張の相違を、特に第一段落と第二段落の内容に注目して、簡潔にまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題二は、現古融合文、現漢融合文、近代文語文、近世の古文などから出題される可能性が高いため、古文、漢文の標準的な学習を怠らないこと。
必要な要素を制限字数内に要領よくまとめることが要求されるので、答案作成の練習を怠らないこと。